

# 中国 5 県休眠預金等活用事業 2021

## 公 募 結 果

### ■ 概要

選考結果	不採択
団体名	特定非営利活動法人むすびこぶ
代表者名	西川 貴章
申請事業名 主題	若者と子ども達が社会とつながる場をひらく
申請事業名 副題	学習・生活・社会参加に困難を抱える若者と子ども達の社会参加支援
エリア／テーマ	【岡山県】 拠点の整備を通じた困難を抱える子ども・若者の居場所と就労支援の仕組みづくり
解決すべき社会課題	① 経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援 ② 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援 ③ 社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援 ④ 働くことが困難な人への支援 ⑤ 社会的孤立や差別の解消に向けた支援 ⑥ 地域の働く場づくりの支援
申請事業の概要	<p>当、特定非営利活動法人むすびこぶは、さまざまな生活上の困難を抱える児童生徒や若年者の支援を主な目的としつつ、さまざまな背景をもつ人々がそれぞれの望みに応じた多様で充実した生を送ることができる地域を実現するため、地域産業の経営改善や文化の発展に資することも目的に掲げている。</p> <p>この事業で対象となる美作市を中心とする勝英地域は、現代の、全国の地方が抱えていると同様の、人口減少と少子・高齢化が進行している。産業規模の小ささから地域住民の所得水準は総じて低く、一方で経済と社会のグローバル化と自由化がもたらした消費動向の変化にさらされ、地域のさまざまな生活に直結する商店や工務店など地場の産業が疲弊、衰退し、その少ない所得の大半が地域外に流出する状態も近年大きく進行してしまっている。</p> <p>このような状況下、高等学校を卒業しても近隣地域に進学する学校も就労の場も少ない状況があって、多くの若者が進学や就職の場を求め地域外に流出し、地域に残った若者たちは活況とは言い難い地域の産業に就労し低所得の状態を余儀なくされている。しかし一方ではデジタルデバイスやコンテンツとその基盤となる通信や電力の消費が大きく伸びたため、本来必須であるはずの生活消費を抑え込んでしまった結果として困窮状態に陥る世帯も増え</p>

てきている。

また、地方においてもサービス産業をはじめ様々な業態において複雑に絡み合った不寛容さが支配する状況などから社会生活に過度のストレスを覚える個人が増えてきたためか、引きこもりやニートなど社会的不適応の状態を示す若者が着実に増えてきており、またおそらくは学校においても同様の要因で、友達同士、教師などとの関係、あるいは発達障害と認知される児童生徒の増加なども相まって、不登校状態に陥る者も着実に増えてきている。

このような状況下では、世代を重ねるごとに所得水準はさらに低くなり、また社会に関与できない個人が増加していった先に(すでにそのような状態にある地区もあるが)、人々が活力を失い、地域社会を支えるべき交流も文化も喪失し、個々がばらばらに細々と自治体などのサポートに頼りながら生活を送る未来が招来されることさえ懸念される。

そこで、同じ危機感を持って、将来にわたり活力ある地域を作るための活動に取り組む地域の動きに加わり、当法人ならではの方法により彼らの選択肢をより多様なものとして、若者達が一己の人間として、諦めではなく、「今、ここにあること」を肯定し誇りを持って地域で生きていける環境を整えることに取り組みたい。

そのために、次のような活動を展開する。

・美作市林野地区または湯郷地区に1戸建て等の建物を確保する。

この地区を選定した理由は、ひとり親世帯の率が高く、また人口がある程度集中していることや中学校、小学校に近く児童生徒にとって交通の便も比較的良好である一方、衰退した旧商業地や温泉街のため空き家率も高いことなどから、試行的な意味合いの強い今回の事業の目的に合致すると考えられること。および、市内他地区で展開されているコミュニティカフェ等の事業地と適度に離れ、地区ごとの特色ある支援のあり方を推し量るために適していると考えられること。の2点が挙げられる。

・当該施設を、当法人の事務所／デザイン事業のスタジオ／子ども食堂／コミュニティカフェ／若者や子ども達の学びのスペースなどの機能を持った、多目的施設として整備する。

・デザインスタジオとしての機能とともに、複数のPCを導入し、画像処理やドローイング、コーディングなど、デジタルコンテンツ制作について学び、実践できる環境を整備し、関心がある者が制作活動や学習に利用できるようにする。また希望すればデザイナーなどプロの制作スタッフによる指導を受けられる環境も整える。

・コミュニティカフェは地域に開かれた場として、誰でも利用できるものとし、その機能の一部を子ども食堂に振り向ける。一部は通所利用できない児童生徒への配送、将来的にはキッチンカーなど一時的な屋外販売拠点を設定するなどして、距離の問題の解消にも努める。

	<p>なおスタッフは、できるだけ就労支援を必要とする利用者の保護者等を雇用する。</p> <p>メニューは、おにぎりと日本茶を主力商品とし、ここにオプションとして栄養バランスの取れた副食を加える。おにぎりを選定した理由は、可搬性が高い食品であり、長時間滞在できない利用者には持ち帰りが可能であること、来所できない利用者にも届けやすいこと、ある程度時間が経過しても食べやすいこと、さらには、協力農家からもっとも入手しやすい米を主体とした食品で一定の低コスト運営がはかれる可能性が高いこと、などが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びや学習を通じて相互に影響を与え合いエンパワメントがはかれる可能性に期待し、引きこもり等の課題を抱える若者達と、不登校等の課題を抱える子ども達を一堂に会するかたちで集わせ時間と空間を共有させる。特に若者達には子ども達への関与を通じて自らの学びや進路の動機付けの機会が生まれることを期待している。</li> <li>・収益の基盤は、デザイン事業を中心とする。地域企業の販促に寄与するため、チラシやパンフレット、冊子等の受注制作事業、web サイトの受注制作事業、自社発行情報紙や自社運営の地域ポータルサイトへの広告料、自社開発商品等の販売を当面行うことにより収益基盤とする。</li> </ul> <p>また、それ以外にコミュニティカフェでの販売やデータ入力業務の受注、地域企業からのアウトソーシング業務の請負などを売上として想定している。</p> <p>これらの事業を実施しながら、通所利用する若者や自宅で就労を希望する若者の中からデザインやコンテンツ制作に携わる者、マネジメントスキルを磨き経営に参画する者を育成することを目指し、関係機関の機関誌や広報誌の編集発行事業の受託、アプリケーション開発やデジタルコンテンツの販売などを行い安定的な収益基盤を確立することを目指す。</p> <p>一定程度の収益基盤が確立でき、新しい事業展開ができる状況が生まれれば、市内他地区での新たな拠点運営を開始する。</p> <p>また、拠点運営を当法人だけで拡大することを目指すのではなく、市内や近隣の企業や団体により同様のコンセプトに基づく拠点運営が開始され、広く市内全域で子ども達や若者のエンパワメント、企業業績の改善や既存の社会資源の見直しによる起業など地域活性化が図られる環境づくりを、関係機関等と連携しながらサポートする体制を整える。</p>
事業実施地域	美作市
申請事業期間	(開始月)2022年4月～(完了月)2025年2月
申請助成額	<p>17,746,600円</p> <p>【内訳】直接事業費 15,416,000円、管理的経費 2,012,000円、評価関連経費 318,600円</p>

## 審査コメント

- ✓ 事務処理能力が不安な印象がある。
- ✓ 人材不足の懸念がある。思いの強い事業担当者を支える、サポートメンバーの存在が必要であると強く感じた。
- ✓ すでに活動している放課後デイサービスからの課題を「何とかしたい」という思いは強く感じた。
- ✓ 子ども達の発達障がいや自閉症などのケアについて、専門家との連携が重要になる。
- ✓ デザイン事業は始めて間もないという認識であるが、将来的に法人の事業の柱となりうるのか、現状と今後の見込みも気になる。
- ✓ 提案内容は社会的意義も高く、必要な支援だと感じた。
- ✓ アウトプットアウトカム指標の中で、サポートする側がどう変化するかについても捉えておく必要がある。

## 中国 5 県休眠預金等活用事業 2021

### 公 募 結 果

#### ■ 概要

選考結果	不採択
団体名	特定非営利活動法人ゆいか
代表者名	福原 寛人
申請事業名 主題	若者就労支援事業
申請事業名 副題	
エリア／テーマ	【岡山県】 拠点の整備を通じた困難を抱える子ども・若者の居場所と就労支援の仕組みづくり
解決すべき社会課題	① 経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援 ② 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援 ③ 社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援 ④ 働くことが困難な人への支援 ⑤ 社会的孤立や差別の解消に向けた支援 ⑥ 地域の働く場づくりの支援 ⑦ 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援
申請事業の概要	岡山県津山市地域に就労に関する基礎学習に関する教室を整備する。また就労に関する支援だけではなく、支援者の居場所の機能も果たせるように整備を進めていく。ビジネスマナーやコミュニケーショントレーニング等を通しての職業訓練、企業での職場実習(通所前期・中期)等を行い、一般就労をする上で必要なスキルを身に着ける。具体的には、農機器、コンバイン、トラクターなどの整備、修理についての研修や木工などの作業の研修を行う。(まき割り、林業などの含む)
事業実施地域	岡山県津山市
申請事業期間	(開始月)2022 年 4 月～(完了月)2023 年 3 月
申請助成額	8,862,080 円 【内訳】直接事業費 8,862,080 円、管理的経費 0 円、評価関連経費 0 円

#### ■ 審査コメント

- ✓ 出口戦略が不明確。費用、収入源、手段が明示されていない。
- ✓ 心意気、事業趣旨に賛同する。
- ✓ 学校に行けない子どもは団体生活の経験が不足する傾向にあると思うので、コミュニケーション支

援の部分には特に期待したい。

- ✓ 事業の計画年数的に短く感じた。短い年数で目的を達成するには、学習カリキュラムの計画が重要になると考える。
- ✓ スピードを重視されていると感じたので、休眠預金からの助成を得るのではなく、自主財源にて自由に取り組まれてもよいのではないかと感じた。
- ✓ 団体の活動を応援したい。しかし経験年数が短く、企画書からは意欲しか汲み取れなかった。

# 中国 5 県休眠預金等活用事業 2021

## 公 募 結 果

### ■ 概要

選考結果	不採択
団体名	特定非営利活動法人吉備たくみ会
代表者名	内田 和雄
申請事業名 主題	手しごと X 若者支援 世代を越えて学び合い、伝え合う場づくり
申請事業名 副題	働きたいけど働けない若者たちと社会を繋ぐ工房が地域で生きる
エリア／テーマ	【岡山県】 拠点の整備を通じた困難を抱える子ども・若者の居場所と就労支援の仕組みづくり
解決すべき社会課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援</li> <li>② 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援</li> <li>③ 社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援</li> <li>④ 働くことが困難な人への支援</li> <li>⑤ 社会的孤立や差別の解消に向けた支援</li> <li>⑥ 地域の働く場づくりの支援</li> <li>⑦ 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援</li> </ul>
申請事業の概要	<p>『解決する課題』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な理由で就職が難しい、学校生活になじめない若者が増えている ⇒障害者と認定されないと支援が受けられず、社会から取り残される</li> <li>・学校生活が苦手ですぐに行けなくなり、家にこもってしまう子どもが増えている ⇒フリースクールやどんな形式の授業も嫌がり、家族でさえも嫌ってしまう</li> <li>・上記のような若者や子どもたちを支援する選択肢が少なく社会から取り残される ⇒様々な可能性を持つ彼らを誰が、どのように受け入れるか</li> </ul> <p>『目指すべき姿』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような境遇の若者/子どもたちも受け入れて支援する居場所がある ⇒障害の有無や行政の担当課によって利用可/不可とすべきではない</li> <li>・ものづくりに関心のある子/若者は多く、人は誰でも様々な創造力を持っている ⇒コミュニケーションが苦手な子どもでも可能性を見つけられる居場所が必要</li> <li>・地域に開かれた場所として誰でも利用でき、年齢や経験など関係なく学び遊べる ⇒他人とのコミュニケーションが苦手でも自然と社会とつながっていく</li> </ul>

	<p>『実践する活動』</p> <p>ものづくりを中心とした手仕事を経験/体験できる居場所の運営</p> <p>『出口戦略(活動の持続)』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営の財源として製品の売り上げ、講座/教室の参加費や受講料、体験会費等見込む</li> <li>・運営者としてひきこもり状態であった若者に自主的に関わって行くことを目指す</li> <li>・地域に開かれた工房としてボランティアを積極的に受け入れる</li> </ul>
事業実施地域	総社市、倉敷市、高梁市、新見市、井原市、浅口市、岡山市、早島町を中心として岡山県内全域と岡山県外
申請事業期間	(開始月)2022年4月～(完了月)2025年2月
申請助成額	20,001,000円 【内訳】直接事業費 18,724,000円、管理的経費 777,000円、評価関連経費 500,000円

## ■ 審査コメント

- ✓ 拠点を倉敷から総社へ移す理由や狙いがよく伝わらなかった。
- ✓ 小規模事業所での経験を通じて社会復帰を遂げた事例もあり、実効性や実現性は高いと感じた。
- ✓ 事務処理能力、会計力、拠点移転の必要性についてそれぞれに不明な点や懸念があると感じた。
- ✓ 技術を身に着けさせる力は強く、貢献度が高いと感じた。
- ✓ 支援対象が技術を身に着けるための支援メニューが充実しており、これまで培った力を発揮してもらえたらと思う。
- ✓ 就労支援の必要性はあり、IT周りの仕組みがしっかりすれば在宅就労の可能性もあるなど可能性がある。
- ✓ 今後の事業展開が読みづらいところに不安がある。
- ✓ 高梁川流域での活動展開は先行する取り組みがあり、福祉の面でも連携が充実するきっかけとなればと思う。
- ✓ 社会復帰の道が断たれた方を対象に、これまでの支援を広げるという点については実効性を感じる。



## 中国 5 県休眠預金等活用事業 2021

### 公 募 結 果

#### ■ 概要

選考結果	不採択
団体名	特定非営利活動法人 備前プレーパークの会
代表者名	北口 ひろみ
申請事業名 主題	多様性を受け入れる包括的な居場所づくり事業
申請事業名 副題	
エリア／テーマ	【岡山県】 拠点の整備を通じた困難を抱える子ども・若者の居場所と就労支援の仕組みづくり
解決すべき社会課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援</li> <li>② 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援</li> <li>③ 社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援</li> <li>④ 働くことが困難な人への支援</li> <li>⑤ 社会的孤立や差別の解消に向けた支援</li> <li>⑦ 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援</li> </ul>
申請事業の概要	<p>『解決すべき課題』</p> <p>ここ数年の社会の閉塞感、新型コロナウイルス感染の影響をうけての社会的変化、教育環境や経済状況の激変により困難さが浮き彫りになってきた家庭への支援の必要性を強く感じている。これから社会が取り組むべき課題として SDGsに掲げられた目標に「質の高い教育をみんなに」「すべての人に健康と福祉を」という目標がある。教育と福祉は両輪のように子どもの成長を支えていくもので、すべての子どもにとって不可欠な要素であるものの、大人が決めた「あるべき姿」の形を押しつけて「子どもが主体」という視点が欠落してしまう社会には、現実の子どもの在り方との齟齬が生まれることになる。子どもの意欲や主体性を高めるには、まず大人側が現代の子どもの目線に立った教育・福祉環境づくりを行い、子ども自身の自己決定が尊重され、将来に夢を持てる経験を積むことができるような仕組みの実現が急務である。社会的には子育ての責任が各家庭に問われるような風潮が高まっているものの、その家庭自身が孤立化・弱体化している現状では、逆にすでに家庭や子どもを追い詰める結果になるため、地域や民間がその課題を解決するための併走者になっていかなければならない。この点において、プレーパークという場が貢献できる可能性は大きいと考える。</p>

	<p>『目指すべき姿』</p> <p>かつて子どもは地域の子として、貧富の差なく、地域で遊び育つ相互の関係があった。これは見えない人間関係の綱の目が作用していたともいえる。家庭の孤立化、地域社会の希薄化が進む中、以前よりも見えにくくなってきている子どもの貧困・虐待問題、そして増加の一途をたどる発達障害・不登校などの課題に対して、親子にとっての身近な居場所・遊び場だからこそ、周囲の大人が気づいて手を差し伸べることができる、いわば社会のセーフティーネットとしての役割を本事業を加えた備前プレーパークの会を目指している。また、SDGsの17番目には「パートナーシップの推進」という目標もある。子どもが主体性を自ら育むことのできる居場所や遊び場を気づいていくことにより、そこで育った子どもたちがこれからの社会形成へ主体的に関わり、将来のSDGsの協働の担い手となっていく一助になるのではないかと考える。子どもたちにこれらかの力を育むために、子どもの育ちを支える現場(保育・教育・福祉)とプレーパークの活動が一体となり、多様な生き方の人々をつなぎあい、新しい時代の持続可能な地域コミュニティを創設し、当拠点を「点」とし、地域と行政をつなぐ支援で「線」へ、豊かな子ども達環境が備前市そして岡山県全体まで、全体の「面」へ広がっていくことを目指していきたい。</p> <p>『実施する活動』</p> <p>現在活動拠点が無い為、まず、活動拠点となる居場所の整備活動から始める。あわせて利用想定者が抱える様々な問題に対処できる要員育成を行い、受け入れ準備を整える。また、活動の柱の一つとして農業を考えている。農作業を通じて利用者の精神的安定を促し、将来の就労訓練につなげたい。また農業活動から上がる収益を本事業の継続的な活動を行うための原資と位置付けたい。</p> <p>『出口戦略』</p> <p>農作業の収益化とその収益による活動継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫した農作物を食材とした子ども食堂</li> <li>・フリースクールの利用料設定(生活困窮世帯を除く)</li> <li>・地域農業への農作業協力金</li> </ul> <p>2026年には年間400万円の事業実施費を本事業の収益の柱として運営を続ける。</p>
事業実施地域	岡山県備前市
申請事業期間	(開始月)2022年4月～(完了月)2025年2月
申請助成額	21,000,000円 【内訳】直接事業費18,800,000円、管理的経費1,200,000円、評価関連経費1,000,000円

## ■ 審査コメント

- ✓ プレーパークからフリースクールへの展開については、経験を踏まえており良い発展と感じている。
- ✓ 福祉と農業を絡めていくことは、プログラムとしてはよいと思うが、事業のゴールとして農業の事業性は十分であるか、自己資金の調達につながるような目途はあるかについて不安が残る。
- ✓ 農業への参入は、人役をとられ時間がかかること。3年間の計画ではなく長期で成果がでることを目指した方がよい。実際の収穫までを担える人材育成なども必要と感じた。
- ✓ フリースクールに関わる人達の変化が指標として盛り込まれていない点が気になる。気持ちの変化なのか自己実現力なのか、工夫をしてほしいと思う。
- ✓ 多くの人の受け皿として期待している。
- ✓ 意欲的で、行政とも対話や連携をされている印象がある。
- ✓ フリースクールは文科省、子ども食堂は行政の担当課など、子どもに対する対応は分断されがちであるが、この拠点を通じて行政の横の連携が生まれることを期待する。
- ✓ プレーパークの運営経験が長く、その活動の中から地域社会の課題を解決したいという展開につながったという点に興味を持った。
- ✓ 農業の収益性について、3ヘクタールもの農地の管理はとても大変で実現性に不安がある。家庭菜園くらいの規模から始められないか。障がいのある方に向けて、大地と向かい合って作業をすることは効果があるとの研究結果もあり、その点は期待している。